

# 委託スタッフは、スーパーワーマンか？ 『海の上のポニーアイ図書館で想う』

神戸学院大学 岡田 悦夫



## ◆業務委託の「夢と現実」

神戸学院大学は、2007年4月、ポニーアイランドキャンパス図書館開設と同時に、全面業務委託にしました。その後、2008年4月、本部となる有瀬キャンパス図書館（整理・利用サービス部門）も業務委託を導入しました。いまは運営部門だけが職員等（10人）で、両館の委託スタッフを合わせて58人（うち女性7割）を擁しています。

職員の立場からいえば、もちろん異動できる職種が狭まったという不満はあります。しかし、利用サービス向上と経費削減という点では、かなりの効果をあげています。とくに、貸出冊数増加やI-L利用増は大きな実績です。人件費削減とともに、補助金採択は大幅な支出抑制となりました。文部科学省特別補助金で



▲中央芝生から見たポニーアイ図書館（2、3階部分）



▲吹き抜けの「無柱空間」にある視聴覚コーナー

は、ポニーアイおよび有瀬の業務委託2事業が「学習研究支援強化のための図書館機能の整備充実」等で採択されています。『大学図書館研究』第83号に、「神戸学院大学新図書館開設と全面業務委託この一年…『委託』といえども、人間ですから…』の視点から」と題して、詳しく紹介しました。本誌ではいま業務委託で感じていることなどをつらつらと書き記します。

業務委託で、私が最も記憶に残る言葉は、丸善(株)前神戸支店長・井上和広氏の「委託といえども、人間ですから…」というセリフです。このセリフはおそらく、真理をついた歴史に残る名言だと思います。私たち職員は、業務委託を導入するとき、すべてが完璧にこなせると思っています、あれやこれやと契約予定の「仕様書」に書き足していききました。



▲すっきりしている貸出コーナー

それは、職員ではできないことを、できなかつたことを、すべて業務委託がしてくれるという夢のようなことでした。いわば、少年時代、「初めて恋した清纯な美少女は、けつして放屁をしない」と信じ込んでいることと似ています。

職員ではできないことを、委託のスーパーワーマンは、やりこなしてくれる。そう思っている私たちに、前神戸支店長は「やんわりと『委託』といえども、人間ですから…」といわれました。改めてそういわれると、納得するのではした。

## ◆「社員である前に、大学職員たれ！」

丸善株式会社的小城武彦社長が、ポニーアイ図書館スタッフを激励に來られたのは、2008年10月8日でした。その際は、有瀬図書館で藤岡由夫図書館長とお会いになりました。同席していた私は、話題のながれで、思わず小城社長の前で、「丸善社員である前に、大学職員たれ！」と発言しました。丸善社員は、当然ながら大学職員よりも厳しい教育や研修を受けているはずで、その時は、当たり前の

発言だと思ったのですが、その後、スタッフの状況はやや予想外でした。当たり前前のことで、たとえば、大学職員33年勤続の私が、他企業へ転職し、一年や二年で企業風土に馴染めるかという、まるで自信がないわけです。

このように考えていくと、委託スタッフの資質等を見極め、目標指針を大学側から示すとともに、私立大学図書館職員としての研修も必要になってきます。たとえば、委託スタッフは概して、「学生に対して丁寧すぎる文書が多い」とか、「教員との接し方が画一的すぎる」など、職員との違和感があるようです。逆に、毎日行われている開館前のスタッフ朝礼は、大変新鮮で、これは運営部門でも一部見習っています。

当然ながら、業務委託がパーフェクトとは行きません。職員と委託スタッフ間で、「日常的な緊張と融和」が何より大切であると思っています。

いずれにしても、職員と委託スタッフと同じ視点であるべきです。学生や保護者、地域住民には、大学図書館で働いていれば、大学職員としか映らないのです。今年度も、「事務職員と委託スタッフとの連携強化」を図書館目標のひとつに掲げています。あまり要求が強すぎても摩擦が起こるでしょう。そのさじ加減が、職員の腕の見せ所といえます。

## ◆「海の上の図書館」開設とその後

さて、2007年4月に開設した『海の上のポニーアイ図書館』はどうなつたでしょうか。真新しい施設と全面業務委

託し。話題性が高いのか、全国各地から図書館関係者が多数訪れています。07年度は3千人に達し、08年度も3千4百人を突破しました。とくに、08年9月、「全国図書館大会兵庫大会」では、ポアアイキャンパスが分科会会場となり、5百人の図書館関係者が実際に館内へ足を運ばれました。

開設一年目は、さまざまなトラブルが発生しました。マニュアルが一人歩きしたことがありました。笑い話のようなことですが、個人研究図書の貸出の際、印鑑を押すように依頼して、「役所仕事か復活するのか」と教員からお叱りを受けたり、居眠りする男子学生を揺り起こしたため苦情があつたり、と管理面を重視する余り、波風がたちました。

利用者統計をみると、「入館者数」07年度9万7千人、08年度10万4千人、「貸出人数」07年度8千人、08年度9千人、「貸出冊数」07年度1万5千人、08年度1万7千人と、軒並み前年度比二桁増を記録しました。相互貸借・相互協力の利用も92%アップしました。



▲「毎週1冊読書運動」ポスター（左）と「読書ラリー」の紹介文

#### ◆貸出冊数が伸びる要因

ポアアイ学舎は、上級学年用で、法・経済・経営学部3、4年次生と薬学部2年次以上が在籍し、学生比率は全体（1万人）の約35%の割合です。ポアアイ学舎は人工島内にあり、クラブハウスなどがなく、学生在居時間が短いのが特徴でもあります。このような環境で、図書館の利用者を増やすのは正直言ってみずかしいです。しかし、ポアアイ図書館は、果敢に挑んでいます。

2008年度のおもな新規事業などを箇条書にすると、次の通りです。

- ①ライブラリーツアー（館内見学・蔵書検索実習）②情報探索講座③読書ラリー④学生ボランティア⑤書籍テーマ展示・関連講演会⑥ミニ展示⑦神戸海洋博物館との連携事業⑧ポアアイ四大学図書館連携⑨トライやるウィーク（中学生就業体験）⑩学内インターンシップ⑪図書館利用者アンケート（学生・教員）——などです。

これらの取り組みは、2008年11月、第10回図書館総合展ポスターセッション



▲ポイント達成者にはオリジナルバッグを進呈

（於：パシフィコ横浜）の優秀賞に輝きました。ポアアイ図書館からの出展作品は、「研究や学習：だけじゃない、これからの図書館——大学図書館」の枠をこえて——というテーマのもとに作成しました。

「学生とともに創る活動的な図書館」という神戸学院大学の図書館目標を実現するため、また地域に開かれた図書館として、従来の大学図書館の枠組みを超えた取り組みのいくつかを作成した6枚のポスターで表現しました。

ポスターセッションで紹介したような「日ごろの活発な図書館実施事業」が、学生の心をとらえた結果、貸出冊数等が伸びたと分析しています。

#### ◆業務委託は順調だが…

神戸学院大学図書館は、職員が主導する体制で、業務委託しており、すべてを丸投げしていません。そのことが認められ、特別補助も採択されました。

また、業務委託を導入し、補助金の交付を受けているからといって、経費がゼロになったわけではありません。企業の



▲ポアアイ図書館スタッフが手作りした「図書館案内」



眺めのよい閲覧室（窓の外には神戸港と六甲山）

ノウハウを吸収すれば、大学直営事業としてさらに安価な運営が可能でしょう。最近、よく思うことがあります。

いま私は、250ccのバイクに乗っています。高速も渋滞道路もスイスイと走れるし、乗り心地も満点です。400ccにすればもつと快適でしょうが、車検代もいるし燃費も悪くなるので、二の足を踏んでいます。将来、体力に自信がなくなれば安全走行のため、快適さは我慢しても、原付50ccに戻す時期が来るでしょう。

利用サービス向上（快適さ）と経費は明らかに相関係数があります。図書館というものは、経費を考え過ぎては仕事になりません。かと言って、無駄は厳に慎むべきです。「大学二極化」——それも1割が生き残り、9割が消滅するなどという恐ろしい予測もあります。各部署に、経営センスの豊かな職員の養成が急務です。私たち図書館職員は、そのような状況を踏まえて、「利用者にとって心やさしい図書館」づくりを励みたいと考えています。

（学術情報センター・図書館事務グループ長）